# 要支援の高齢者を対象とした、「荒尾市からだ元気教室」

# 連携したモビリティ・マネジメント実証実験 ①.背景と目的

伊藤 信也 荒尾市 総合政策課 髙木 大地 荒尾市 地域包括支援センター

内村 圭佑 日本工営 (株) 福岡支店 北尾 昌平 (株) ともいき Labo



#### 【これまでの取組】

H30年度からアクティブ シニアを対象とし、体操教室 会場などを訪問。参加者の行 動パターンに応じた公共交 通の利用提案やフィード バック調査等のフルセット TFPによる参加者一人ひとり に 寄 り 添 うSMM(執 念 の MM)により、高い転換効果 (参加者の約10%)を確認。





対象者 4年間合計 893 人

からだ元気教室の目標シート

なりたい自分、目指す姿(これからしてみたいこと、できるようになりたいこと)

からだ元気教室に通う間(3か月間)に達成したい目標

公共交通利用の意向(目標)

ご協力ありがとうございました。(問い合わせ先:荒尾市総合政策課 0968-63-1273)

⑥ 運転が難しくなった場合

移動手段をバス等の公共交通に変えることが

3 公共交通を (今以上に) 利用するきっかけ

)バスの乗り方を理解できた場合

② 友人から公共交通を勧められた場合

③ 家族から公共交通を勧められた場合

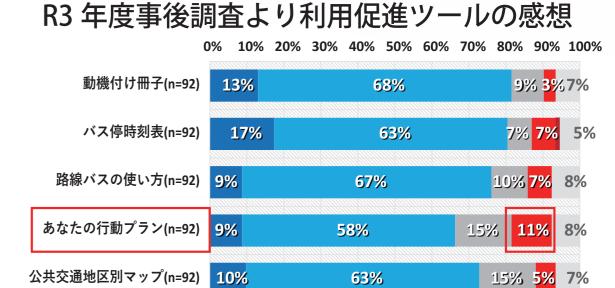
④ 来訪先 (病院やサロンなど) から公共交

(H30:355 人、R1:216 人、R2:168 人、R3:154 人)

#### 【課題】

高い転換効果が発現された反面、参 加者にとって参考になった利用促進 ツールは、「バス時刻表」「動機付け冊 子」「路線図」。参加者一人ひとりに寄 り添った「あなたの行動プラン」は参 加者にとって貢献度が相対的に低い 結果に。

手間暇かけることも重要だが、もっ と効率的かつ効果的なMMの手法があ るのでは?



■参考になった ■ どちらともいえない ■あまり参考にならなかった ■全く参考にならなかった ■無回答

#### 【目的】

これまで健康づくりMMでは、ターゲットを「アクティブシニア」としていた。

R5年度よりターゲットを「要支援 1、要支援 2 の高齢者で、市の健康づくり施策『荒尾市からだ元気教室(通所型サービスC:地域包括支援センター主催)※』 参加者へ切替え、簡易型TFPを試行し、より簡便な手法で効果を最大化する手法を見極めることを目的に実証実験を行った。

※「荒尾市からだ元気教室」とは、主に要支援 1, 要支援2の体力に自信が無くなった方に向け、自分でできることを増やすための介護予防プログラムを実施する教室。 教室に3ヵ月通うことで、買い物や通院など日常生活を高齢者自身で行えるようになることを目標としている。

## 2.プロジェクトの内容

#### ■地域包括支援センター・教室運営事業者との連携 22 荒尾市からだ元気教室で事前調査

- ・ 荒尾市総合政策課(公共交通所管課)と保険介護課地域包括支援 センター(からだ元気教室所管課)、教室運営受託事業者(株式 会社ともいきLabo)で連携
- ・からだ元気教室参加者へあらかじめ日常的な生活状況を調査す る内容とMM事前調査票の内容のすり合わせを実施し重複した 設問が、無いように調整

荒尾市 からだ元気教室 公共交通利用促進 事前調査票

問1:「お名前」「最寄りバス停(分かられる場合)」「年齢」をご記入下さい。

問2:あなたの自動車運転免許証の有無、自主返納意向について教えて下さい。

② 免許有り(運転はしていない)

③ 自主返納しない

① 免許有り

② 免許無 l

2 現在と将来の、お買い物や通院時などおでかけの際の移動手段等について

① ほぼ毎日 ②週に3、4日 ③週に1、2日 ④月に2、3日 ⑤ ほとんど外出しない

① ほぽ毎回 ②半分程度 ③たまに(2~3割) ④ほとんど使わない ⑤ 全く使わない

(ご自身で運転) ②鉄道

問6:『現在』のおでかけ時の移動手段と『将来(免許返納後など)』考えられるおでかけ脚

⑤ 病院·福祉送迎

⑥ その他施設の送迎 ⑫ 徒歩

問4:普段ご自身でお買い物や通院などでおでかけされる頻度を教えて下さい。

の移動手段を教えて下さい (複数回答可)

④ おもやい・乗合タク ⑨ バイク

⑥ その他施設の送迎 ⑫ 徒歩

『現在』の移動手段 ■

⑩ 自転車

⑪ シニアカ・

① 3000 円以内 ② 5000 円以内 ③ 7000 円以内

問7:お買い物1回当たりに使う金額を教えて下さい。

⑧ 自動車 (送迎)

(免許有りの方) 自主仮納意向

『将来』の移動手段

(ご自身で運転)

⑧ 自動車 (送迎)

⑩ 自転車

② 現時点で返納するつもりは無いが、将来的にする

1 ご回答される方について

あなたの自動車運転免許証の有無

④ 最初から免許を持っていない

② 夫婦二人

②鉄道

③ 子ども世帯等と同居

- ・「荒尾市からだ元気教室」の新規参加者10名に対し、初回教 室にて公共交通の使い方やメリットを紹介
- ・現在の移動に関する状況を聞き取り(事前調査)
- ・教室実施期間(3か月間)に路線バスに2回乗車可能な「お試 し乗車券」を配布

#### 33 か月後事後調査の実施 ・3か月後の教室最終回において、公共

交通利用状況の変化を聞き取った (事後調査)



#### の車(自身で運転 or 送迎)利用の 問9:どのようなきっかけであれば、(今以上に)公共交通を利用されますか。(複数回答可) 点尾市のモ クルマは確かに便利 バスの利用者は減り このままではバスの 共交通が利用しにくい 一方、今後ご高齢の 移動に困る方々は確す 『荒尾市モビリティ 「公共交通(パス・電 産支バス 運行系統一覧 した生活を送る事がで 公共交通やクルマの 3バスを降いる。大 降りるバス停に近づいたら 降車ボタンを押して、 EDITOR OF THE PERSONS バスの運賃の見方



からだ元気教室利用者情報整理表 【担当者会議までに作成!4枚印刷!】 4枚=本人、担当ケアマネ、からだ元気教室事業者、生活支援コーディネーター ※生活支援コーディネーターが介入しないケースは3枚になります※

判定 今の状況(どのように行って

・通所C利用に 至った経緯 特記事項

8 室内移動 動 屋外移動

> 入浴 排泄

洗濯

掃除

買物

調理

通院

服薬管理

3 本人の住む地域にある資源(その地域にあるも

□ はつらつ教室(荒尾市民であれば参加できる体格

□ そのほかの集い・通いの場※住民主体・民間企

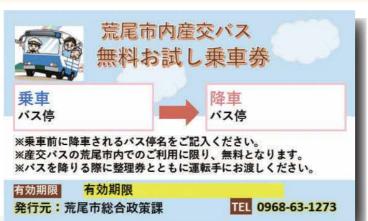
□ 生活支援や支え合いの活動 → 内容:(

□ 高齢者いきいきサロン → 会場:

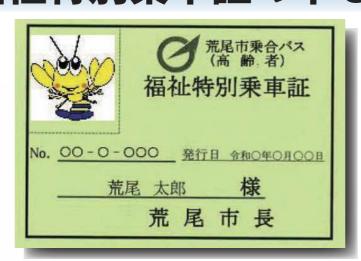
→ 内容·会場·開催日時:(

7 そのほか思いつくもの → (

### 参加者 10 名中 4名 の方が お試し乗車券を利用

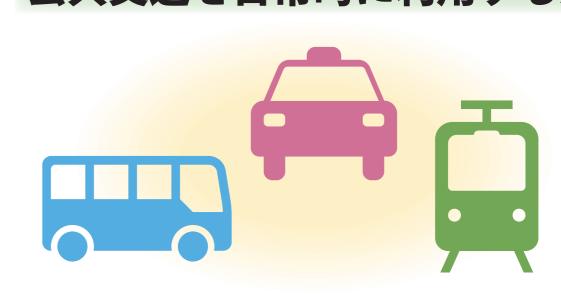


## 参加者 10 名中 2名 の方が 市福祉特別乗車証の申し込み



※70歳以上の市民が路線バスを 100円で乗車可能な施策

## 参加者 10 名中 4名 の方が 公共交通を日常的に利用する意向



#### からだ元気教室と MM の相性は良い!

・要支援者を対象にしたことで、免許返納のタイミングとも重なる方も多く、移 動手段について自分事として考える参加者が多い・ちょうど良いタイミングで公 共交通の情報提供を行い、お試し乗車券でお試し乗車を促すことで、参加者間で公 共交通利用の雰囲気が醸成・からだ元気教室とモビリティ・マネジメントはどちら も「自家用車に依存しない自力でのおでかけ」を目標としており相性が良い

## R6年度以降もからだ元気教室と一体化したMMを実施

- ・からだ元気教室のプログラムの一環としてモビリティ・マネジメントを積極的に 取り入れ
- ・からだ元気教室の限られた時間を有効に活用し、かつ公共交通のメリットや利用 方法の説明を属人的にならず誰でも行えるように「説明動画」を作成し更なる効 率化を実施
- ・今後も毎年数十名を対象に簡易型TFPを実施し公共交通利用を増加させる

